

特別会計

特定の歳入歳出を一般の歳入歳出と区別するための会計が特別会計です。

	歳入	増減率	歳出	増減率
国民健康保険	183億6,179万2,982円	△1.4%	179億5,321万9,342円	0.0%
狭山市駅東口土地区画整理事業	8億8,475万4,325円	6.7%	6億5,702万1,142円	△2.4%
介護保険	86億6,974万2,730円	5.6%	82億2,064万292円	3.5%
後期高齢者医療	15億8,668万6,994円	4.9%	15億6,893万1,725円	5.1%



どうなっているの？

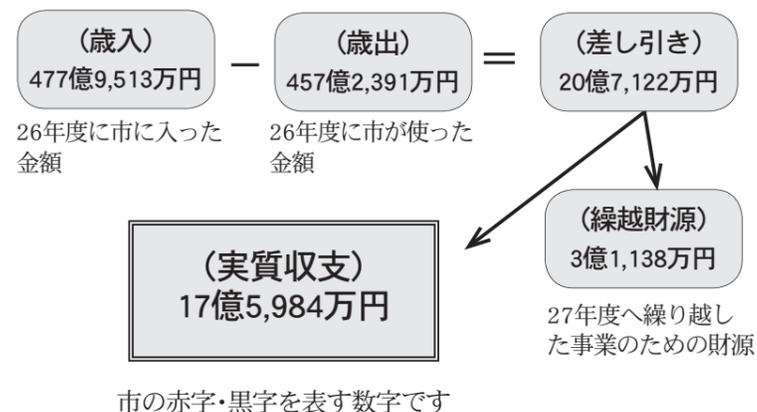
狭山の台所事情



市では毎年、予算の執行状況や決算について公表し、市民の皆さんが納めた税金がどのように使われているのかをお伝えしています。26年度は、税金や国や県からの補助金など、収入がどれくらいあり、どのように使われたのか。また、台所事情は苦しいのか、安心できるのか。今月は一般会計、特別会計の決算概要と現在の財政状況をお知らせします。

市の決算は
黒字なの？赤字なの？

黒字です



市の財政が黒字か赤字かを判断する「実質収支」で、26年度の一般会計決算は、黒字となりました。

なお、26年度は必要な事業を行うため、貯金を取り崩して対応したため、25年度との収支の差額がマイナスとなっています。

26年度実質収支	17億5,984万円
25年度実質収支	21億7,967万円
単年度収支(25年度との差額)	△4億1,983万円
積立金	10億8,903万円
積立金取り崩し額	10億円
実質単年度収支	△3億3,080万円

【早期健全化基準とは…？】

次のいずれかの基準値以上となった場合、財政状況が悪化していると判断され、自主的な改善努力が必要となります。

- ▶実質赤字比率…11.96%
- ▶連結実質赤字比率…16.96%
- ▶実質公債費比率…25.0%
- ▶将来負担比率…350.0%

◆資金不足比率

指標	比率
水道事業会計	不足なし
下水道事業会計	不足なし

現在の財政状況は安定していますが、将来の高齢化や人口減少を考えると、安心してばかりはいられません。将来を見据えながら予算編成を行っていきます

一般会計

市の運営をするための基本的な経費が一般会計です。

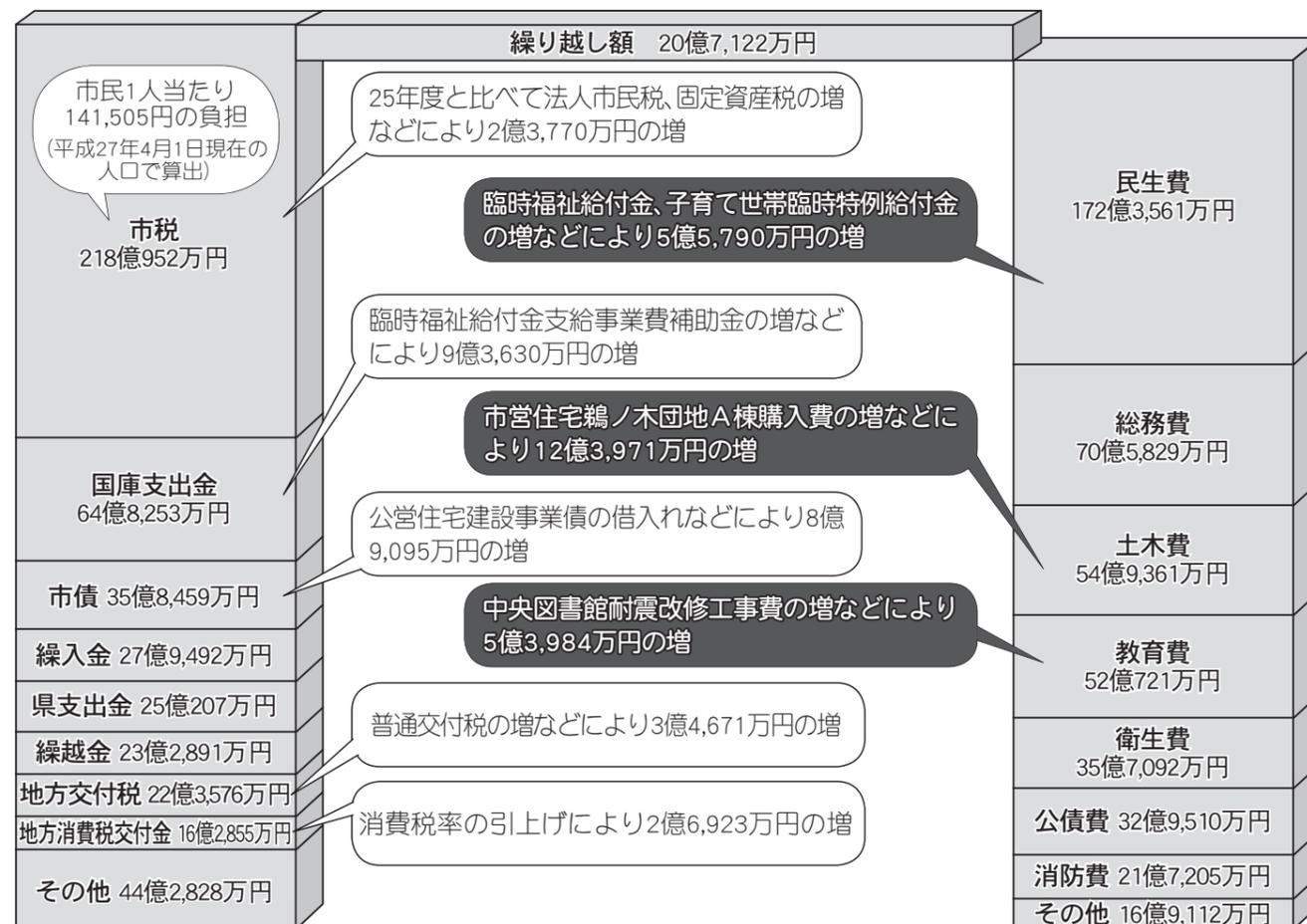
歳入総額(収入)

477億9,513万円
前年度比(4.0%増)
18億2,843万円増

歳入から歳出を引いた残額20億7,122万円を
27年度に繰り越しました

歳出総額(支出)

457億2,391万円
前年度比(4.8%増)
20億8,612万円増



市の財政は
大丈夫？

早期健全化基準からみて
健全な財政状況です

26年度決算に基づく市の健全化判断比率と資金不足比率は以下のとおりです。

◆健全化判断比率

指標	内容	比率
実質赤字比率	一般会計などの赤字の大きさ	赤字なし
連結実質赤字比率	市全体の赤字の大きさ	赤字なし
実質公債費比率	その年の借入金などの返済額の大きさ(過去3か年の平均値)	1.6%
将来負担比率	借入金残額など、今後支払う必要のある負債の大きさ	9.1%